

令和5年度 立山町社会福祉協議会事業報告

高齢者単身世帯、日中高齢者世帯、核家族化による子育て世帯、独居若年世帯等の著しい増加やコロナ渦の影響を受け、地域のつながり・支え合う力の希薄化、社会的孤立が地域の大きな問題となっており、高齢福祉、障がい者福祉、児童福祉等の各分野における福祉ニーズは一層、多様化・複合化しています。

また、近年、多発している自然災害に対する福祉的支援のニーズへの対応も求められています。

令和5年度は「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指して」を基本理念に策定された「第4次地域福祉活動計画（2023～2027年度）」の5年間の年次計画がスタートしました。重点事業の実施を通して8つの基本目標を推進してまいります。

長引いた新型コロナウイルス感染症は感染症法上の分類が令和5年5月8日以降、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に引き下げられ、外出の自粛等の行動制限やマスクの着用などの感染対策も基本的に個人の判断とされました。

感染症対策を取りながらも地域のサロンや行事が少しずつ再開されることが増えてきた一方で、感染症の長期化による厳しい雇用情勢等を受け、休業や失業等、収入の減少した生活困窮者相談は当面続くと思われまます。

令和5年度はコロナ特例貸付の償還が始まり、適切な債権管理と借受人への自立支援に取り組みました。

令和5年6月から7月にかけて町内において発生した豪雨災害の福祉的支援のニーズに対応するため、災害ボランティアセンターを開設し、行政や民間企業と連携のもと災害ボランティア活動を行いました。

更には令和6年1月には能登半島地震が発生するなど、平時から災害福祉支援のネットワーク体制を構築する必要性が高まっています。

令和5年10月19日には立山ライオンズクラブと、令和6年3月14日には立山舟橋商工会青年部と町社会福祉協議会との間で、それぞれ「災害時における福祉・ボランティア活動支援に関する連携協定」を締結しました。

また、大規模災害発生時等における、優先的に実施すべき業務の実施体制や対応手順を定めた、「福祉介護事業所BCP（業務継続計画）」を策定しました。

その他、地域住民の福祉拠点として多様化、複合化する福祉ニーズを的確にとらえて極力対応するため関係機関との連携や協働により、以下の事業に取り組みました。

- ①見守り活動や地域交流の場づくりなどを中心とした小地域福祉活動の推進
- ②関係機関との連携強化による在宅福祉サービスの推進
- ③総合的な相談支援体制の整備、推進
- ④ボランティア活動、福祉教育の推進
- ⑤災害ボランティア活動の支援
- ⑥高齢福祉事業の推進
- ⑦日常生活自立支援事業の推進
- ⑧共同募金配分事業による活用事業の実施
- ⑨出逢い応援事業の実施による婚活支援

これらの事業等の取組みについて、機関紙「そよかぜ」やホームページ等により情報発信に努めました。

1. 法人運営事業・その他の事業

(1) 法人運営、役員活動事業

5月	令和3年度会計監査	5月12日	元気交流ステーション
5月	理事会	5月15日	文書審議
5月	理事会	5月25日	元気交流ステーション
6月	評議員選任・解任委員会	6月1日	文書審議
6月	評議員会	6月16日	元気交流ステーション
6月	理事会	6月19日	元気交流ステーション
8月	理事会	8月28日	元気交流ステーション
9月	評議員選任・解任委員会	9月1日	文書審議
3月	理事会	3月1日	文書審議
3月	理事会	3月25日	元気交流ステーション
3月	評議員会	3月26日	元気交流ステーション
3月	評議員選任・解任委員会	3月31日	文書審議

(2) 共同募金活動、日赤事業、立山善意銀行事務、町遺族会事務

(3) 社会福祉協議会ホームページの開設、運営

ページビュー数 18,312回

(4) フードドライブ事業 ※日赤立山町分区、町法人連絡会との共催

家庭や職場等で余っている食品や生活用品を募集し、必要とする方へ届ける取り組みとして、各団体と連携して年2回開催した。

・R5夏季フードドライブ

食品募集 8月1日～8月15日 社会福祉協議会窓口

受付数 17件 食品991個 / 日用品75個

食品配布会 8月20日 元気交流ステーション

47世帯へ配布

・R5冬季フードドライブ

食品募集 12月1日～12月15日 社会福祉協議会窓口

受付数 34件 食品1,627個 / 日用品56個

食品配布会 12月18日 元気交流ステーション

111世帯に配布

・個別配布 4月1日～3月31日 社会福祉協議会窓口

29世帯へ配布

2. 企画広報事業

令和5年度立山町社会福祉協議会表彰式において、これまで福祉の推進に功績のあった個人と団体を表彰し、より多くの町民が福祉について考える機会とした。また、記念講演会を開催し、ボランティアや福祉活動に関する理解促進を図った。

立山町社会福祉協議会表彰 11月18日 元気交流ステーション

社会福祉事業功労7名

記念講演 「福祉教育の展望」

講師 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 様

3. 地域福祉推進事業

(1) 地域総合福祉推進事業（ふれあい型・ケアネット型）への助成、活動強化に努めた。

地区事務局会議の開催

- ・第1回 地区社協事務局会議 4月21日 元気交流ステーション
- ・第2回 地区社協事務局会議 6月27日 //
- ・第3回 地区社協事務局会議 9月26日 //
- ・第4回 地区社協事務局会議 12月20日 //
- ・第5回 地区社協事務局会議 3月8日 //

ケアネット事業活動実績

地区社協を窓口として、支援を必要とする方や世帯を対象に、地域の支え合いによる見守り活動等を行った。

令和5年度：実施地区数	10地区	援助対象者	139名
		活動参加者数	275名
		訪問等活動延べ回数	11,028回
令和4年度：実施地区数	10地区	援助対象者	160名
		活動参加者数	234名
		訪問等活動延べ回数	10,017回

サロン事業活動実績

ふれあいいきいきサロン

地区社協を中心にふれあいいきいきサロンを開設し、高齢者の生きがいや社会参加意欲を高めた。

令和5年度：延べ	617回	参加者延べ	9,206名
令和4年度：延べ	540回	参加者延べ	7,482名

子育てサロン

地区社協単位で子育てサロンを開設し、主に未就所（園）児と家族を対象に、子育て期の不安の解消や情報交換など子育て支援を行った。

令和5年度：延べ	60回	参加者延べ	1,868名
令和4年度：延べ	56回	参加者延べ	1,153名

(2) ケアネットセンター運営事業

- ・実施地区検討会・報告会等参加 10回
- ・立山町ケアネット活動全体検討会 7月19日 元気交流ステーション 参加者33名
立山町内のケアネットリーダー・メンバーを対象に、ケアネット活動の現状や課題の共有、情報交換の場とし、活動推進を図る。

テーマ：「ケアネット活動の周知と理解を広げるために～それぞれができることを考えよう～」 助言講師：金城大学 人間社会福祉学部 教授 内 慶瑞 氏

- ・ケアネット活動合同交流研修会 2月18日 元気交流ステーション 参加者68名

滑川市及び立山町内におけるケアネット活動の推進のため、実践的に関わっているケアネットリーダー・メンバー、地区社会福祉協議会関係者等が、実践活動上の情報や課題を共有化し、積極的に協働することで、相互のケアネット活動のより一層の充実を図る。

テーマ：「ケアネット活動を中心とした地域福祉活動の推進を目指して」

助言講師：金城大学 人間社会福祉学部 教授 内 慶瑞氏

- ・町内居宅介護支援事業所連絡会・ケース検討会等出席 15回
- ・個別ケースの相談や会議への出席・開催 34回

(3) 福祉人材育成・支援事業

〈ふれあい活動員の配置〉

ふれあい活動員（福祉協力員）を62名配置し、サロン活動やケアネット活動への実施・協力を行った。

- ・第1回ふれあい活動員・福祉教育サポーター合同研修会

5月12日 元気交流ステーション 参加者41名

テーマ：「ふれあい活動員・福祉教育サポーターの役割と活動内容について」

- ・第2回ふれあい活動員研修会

3月6日 元気交流ステーション 参加者42名

テーマ：「そもそもSDGsって何？一人一人の地域福祉活動が誰一人取り残さない地域づくりへ」

講師 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま

常務理事・事務局長 堺 勇人 氏

〈ふれあいいいききサロン・子育てサロン運営に伴う協力者との連携〉

各地区のふれあいいいききサロン及び子育てサロンの協力者を対象に連絡研修会を行った。

- ・第1回ふれあいいいききサロンリーダー研修会

6月14日 元気交流ステーション 参加者33名

テーマ：「誰もが参加できる居場所づくりを目指して！

～サロン活動のメニュー内容をリニューアルしよう～」

- ・第2回ふれあいいいききサロンリーダー研修会

10月23日 元気交流ステーション 参加者42名

テーマ：「干支の型抜きアート指導講習」

- ・子育てサロンリーダー研修会

9月15日 岩嶽公民館 参加者33名

テーマ：「立山地区子育てサロンの視察をとおして

今後の子育てサロンのあり方を考えよう」

(4) 地域福祉活動計画の推進

2023年度～2027年度の5ヵ年を計画期間とする第4次地域福祉活動計画の完成報告を行うとともに、推進委員会を設置して、初年度の方向性及び第3次地域福祉活動計画の最終年度における事業の点検・評価を行った。

- ・完成交流会 4月21日
- ・推進委員会 5月25日

(5) ふれあい総合相談事業の実施

弁護士等の専門相談、民生委員児童委員による心配ごと相談等の一般相談を実施した。また事務局職員が相談援助を随時行った。町広報や社協だより「そよかぜ」に相談センターの相談日を掲載し広報に努めた。ふれあい総合相談センターに関わる相談員等を対象に研修会を開催した。

- ・ふれあい総合相談センター相談員等合同研修会

10月30日 元気交流ステーション 参加者24名

(心配ごと相談員、行政相談員、人権擁護委員、生活支援員、地区社協事務局と合同)

講義：「相続の基本と豆知識」

講師：富山中央法律事務所 西山貞義 弁護士

- ・相談件数 法律相談 44件 心配ごと相談 7件 職員対応相談 21件

(6) 地域公益活動への支援

町内の法人相互間の連携及び各法人それぞれがもつサービスとの連携等により、地域への貢献活動を推進するため設立した立山町社会福祉法人連絡会の会員法人が、情報や課題を共有し、協働による活動を積極的に行った。

- ・法人連絡会の開催 2回

- ・災害時の体制整備

フードドライブの取り組み（法人運営事業と連携）

法人連絡会として取り組みの周知及び協力（食品の提供、当日の運営協力等）

第1回 8月20日（日） 元気交流ステーション

第2回 12月17日（日） //

立山町総合防災訓練への参加（展示ブース：災害時における法人連絡会の役割）

11月11日 高野小学校体育館

- ・福祉人材の育成

2月～3月 実習生の受け入れ・指導

4. 助成事業

社会福祉団体等5団体に活動費の助成を行った。

5. 在宅福祉サービス推進事業

(1) 高齢者外出支援サービスの実施

高齢者で心身の障がい及び疾病等の理由により日常的に車いすを利用している方に対し、車両と運転手を派遣し医療機関への外出支援を行う。

登録者数 2名 利用延べ日数 0日 利用延べ回数 0回

6. ボランティア活動事業

(1) ボランティアコーディネーター設置事業

ボランティアセンター相談件数	センター利用に関するもの	248件
	ボランティア情報等に関するもの	30件
	ボランティア保険に関するもの	89件

助成金・寄附等に関するもの 228件

人材の紹介に関するもの 20件

(2) ボランティア活性化事業

ボランティアに関する情報を社協だより「そよかぜ」の紙面や町内数か所に設置した掲示板で紹介した。また、ボランティアセンター運営委員を委嘱し、運営委員会を開催することで、事業運営の推進を図った。

第1回 6月29日(木) 元気交流ステーション

第2回 3月27日(水) //

(3) 調査研究事業

ボランティア会員を対象に、活発で特色あるボランティアグループによる課題改善方法等の報告を行い、会員同士の情報交換や地域のボランティアについての理解を深めた。また、日頃のボランティア活動にも活かせるレクリエーション技術を、親睦を深めながら楽しく学んだ。

・ボランティアグループ交流会 3月12日(火) 元気交流ステーション 参加者 30名

ボランティアグループ活動報告 (3団体)

グループ活動にも活かせるレクリエーションの実技指導

講師 NPO法人富山県レクリエーション協会 事務局次長 大橋 和子 氏

(4) 養成研修事業

ボランティアリーダー等の連絡会やボランティア会員を対象としたボランティアフォローアップ講座を実施した。

・ボランティアリーダー連絡会 9月26日 元気交流ステーション 参加者19名

各グループの活動状況や今後の活動について確認した。

・ボランティアフォローアップ講座 1月30日 元気交流ステーション 参加者18名

講義・ワーク 「ボランティアに活かせる聴く力」

講師 NPO法人ここらいふ 理事長 杉田 由美 氏

// 副理事長 廣瀬 圭子 氏

(5) 広報啓発事業

ボランティア活動の啓発・推進を図るため、ボランティアまつりを開催した。ボランティアグループの活動発表(5団体)やボランティア体験コーナー(6団体)や登録グループの活動紹介パネルの展示を行った。また、ボラカフェ・軽食コーナーや就労支援施設商品の販売を再開した。

・ボランティアまつり 令和5年11月18日(土)

元気交流ステーション 2階 大会議室・くつろぎ交流室 参加人数 118名

(6) 児童・生徒のボランティア活動普及事業

推進校8校(小学校6校、中学校1校、高校1校)に活動費助成を行った。

(7) 福祉教育地域指定推進事業

「地域の一員としての気づき」というテーマに基づき、保育関係者・教育関係者・ボランティアを対象に福祉教育推進セミナーを開催した。また、担当校等との連携学習会の他、町内小学校での出前学習を行った。

・担当校との連携学習（釜ヶ淵小学校5年生8名）

- 6月20日 学習会「地域福祉活動の理解」グループワーク「自分にできること」
7月5日 釜ヶ淵地区サロンへの参加
8月～10月 地域のお年寄りを招待するサロンの企画・準備・案内
11月17日 招待サロンの運営
2月13日 年度末報告会（取り組み報告）

・出前講座

- 9月7日 防災学習
立山中央小学校 4年生 96名
9月25日 障害理解（身体・疑似体験）
立山北部小学校 5年生 32名
9月28日 障害理解（車いすバスケットボール選手）
立山中央小学校 5年生 96名
10月6日 障害学習（手話）
立山北部小学校 5年生 32名
10月31日 障害理解（知的障害）
高野小学校 4年生 12名
11月28日 障害理解（知的障害／雷鳥苑での交流会）
高野小学校 4年生 12名
11月30日 福祉活動理解（民生委員児童委員活動）
立山小学校 5年生 18名

・福祉教育推進セミナー

- 第1回 福祉教育推進セミナー 6月21日
元気交流ステーション 9名
「令和4年度活動状況報告・令和5年度計画について」
講師：富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏
第2回 福祉教育推進セミナー（報告会）2月13日
元気交流ステーション 40名
報告：釜ヶ淵小学校、立山町社会福祉協議会
講師：富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏

(8) 災害救援ボランティア活動支援事業

災害救援ボランティアセンターや避難所の運営、その他必要な機能等について考える。また、災害時に限らず、地域での困りごとに対応できる協力者を増やすことで、災害時の支え合い機能の強化・組織化を図った。

・災害対応（6月28日白岩川水害）

- 災害ボランティアセンター運営期間 令和5年7月1日～7月11日 11日間
ボランティア希望件数 10件（相談者重複あり）
ボランティア活動者数 166人

※その他 1月6日（土）高岡VC応援派遣2名 3月9日（土）氷見市VC応援派遣2名

・災害救援ボランティア研修会

令和5年10月4日 元気交流ステーション 参加者 33名

講義 「被災地に求められる災害ボランティア活動」

講師 特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク

理事長 李 仁鉄 氏

・内部研修会

令和5年10月4日 元気交流ステーション 参加者11名（社会福祉協議会職員）

講師 特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク

理事長 李 仁鉄 氏

(9) 福祉教育サポーター養成確保事業

町づくりや福祉教育の推進を図ることを目的に、福祉教育サポーターの養成研修会を開催した。

また、サポーター設置検討委員会にて、養成・設置に係る意見交換を図った。（修了者43名）

・福祉教育サポーター設置検討委員会

第1回 養成計画 6月27日

第2回 事業報告・次年度計画 3月9日

・福祉教育サポーター養成確保事業（全5回）

受講者7名中／7名修了 第3回以外の会場は元気交流ステーション

※第1・3・4・5は、修了者のフォローアップ講座を兼ねる

第1回講座 8月9日

講義「福祉教育の基本」グループワーク

講師 富山県社会福祉協議会地域福祉部

部長 水井 勤 氏

第2回講座 夏季 8月20日 冬季 12月17日

体験「フートドライブ活動への参画」

第3回講座 9月27日

講義&交流「障害理解について（知的・精神）」

講師 NPO法人クラシーズ

第4回講座 11月18日

講演会「福祉教育の展望について」

講師 富山国際大学子ども育成学部

教授 村上 満 氏

第5回講座 2月26日

講義 グループワーク「地域の課題を我が事に捉えてもらうには」

講師 富山県社会福祉協議会地域福祉部

部長 水井 勤 氏

※その他、福祉活動の際に適宜修了者と連携し、福祉教育活動を推進

(10) 新型コロナウイルス感染者等生活支援(買物代行)事業

町在住で、富山県中部厚生センターから新型コロナウイルス感染による 自宅療養、または濃厚接触者として自宅待機を求められた方のうち、親族等から支援を受けることができない方に対し、

食料品、日用品等の買物代行を行う事業（但し5月8日以降、5類感染症へ変更により中止）

利用者数 0名

7. 居宅介護支援事業

ケアマネジャーによる適切なケアプランの作成、介護給付費の管理

要介護1～5	月平均利用者数	120名
介護予防	月平均利用者数	9名

8. 居宅介護等事業（ホームヘルプサービス）

(1) 要介護認定者への訪問介護	要介護1～5	月平均利用者	15名
	総合	月平均利用者	14名
(2) 障害者への訪問介護	身体障害者	月平均利用者	2名
	知的障害者	月平均利用者	2名
	精神障害者	月平均利用者	9名
(3) 自立支援サービス	令和5年度利用者		5名

9. 日常生活自立支援事業

高齢者や障がいのある方に対して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理のお手伝いをする
ことにより、安心して生活が営めるように生活支援員が援助を行った。

利用者 5名 生活支援員登録者 6名

制度利用等相談件数 5件 相談援助件数 74件

10. 高齢者福祉推進事業

(1) みらいぶくつろぎサロン運営事業

元気交流ステーションに集約されている保健福祉総合機能を活かした誰もが集える常設型のサロ
ンとして、引きこもりの防止や認知予防に関する活動を取り入れたメニューの提案、健康器具等の設
置などを通して、積極的な社会参加、仲間づくり、生きがいつくり、健康づくりの一助となる機会を
提供した。また、小物づくりキット等の（干支のちぎり）購入助成等を行い、各集落でのサロン活動
の活性化を支援した。

元気交流ステーション2階大広間 サロン開催日数218日 延べ利用者数 4,971名

(2) 福祉バスを運行し、くつろぎサロンへの送迎及び福祉団体、地区社会福祉協議会等の諸行事の送迎 を行った。

令和5年度 運行回数 延べ 136回 利用者数 延べ 1,521名

令和4年度 運行回数 延べ 130回 利用者数 延べ 703名

令和3年度 運行回数 延べ 96回 利用者数 延べ 503名

11. 基金運営事業

(1) 社会福祉事業振興基金の管理、運営

(2) ボランティア基金の管理、運営

1 2. 共同募金配分事業

(1) ふれあいいきいきサロンランチ活性化事業

高齢者ふれあいいきいきサロン、子育てサロン等に対して講師の派遣を行った。

講師派遣：ハートビートライフ・オカ インストラクター他 延べ約60回派遣

(2) 支えあい（防災）マップづくり事業

住民同士のふれあいや支え合い活動を地図上に可視化するマップ作り及びその活用研修会を開催し、地域住民の支え合いの実績や生活上の問題を具体的に把握し、共助の仕組みを検討した。また、作成したマップの効率の良い活用を促すため、防災の視点を取り入れた。

・支えあいマップづくり実践 下段・利田・上段・五百石

講師：合同会社 HUGKUMI 代表社員 長井 一浩 氏

下段地区 7月 8日 下段公民館（柿木沢・坂井沢）

利田地区 7月 8日 利田公民館（金屋・総曲輪・下利田）

上段地区 11月 12日 上東地域活性化センター（上末・日中柴山）

五百石地区 11月 12日 下前沢公民館（下前沢）

(3) 広報紙発行事業

社会福祉協議会だより「そよかぜ」の発行

年6回（奇数月） 全世帯配布

(4) 地域福祉・ボランティア活用啓発事業

町社会福祉協議会第4次地域福祉活動計画ダイジェスト版冊子を作成した。

(5) ふれあい食堂運営事業

多世代交流促進、居場所づくりを目的に町内10地区社会福祉協議会と連携して開催した。感染拡大防止のため、テイクアウト型で開催した。

開催状況

利田地区	昼食を伴う交流会として開催
下段地区	公民館行事と共催
高野地区	公民館行事と共催
東谷地区	テイクアウト品の配布のみ
五百石地区	レクリエーション協会・町社協と共催
釜ヶ淵地区	テイクアウト型で開催
立山地区	テイクアウト品の配布のみ
上段地区	公民館行事と共催
大森地区	テイクアウト型で開催
新川地区	昼食を伴う交流会として開催

(6) 地域歳末たすけあい助成事業

町内10地区社会福祉協議会へ助成し、歳末時期に合わせて、見守り訪問や3世代交流等を推進した。

(7) 地域食堂支援事業（テーマ型募金事業）

居場所づくりや多世代交流促進を目的とする活動の支援として、環境整備用品、備品等を配備した。

1.3. 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

低所得者世帯等へ生活福祉資金等の貸付・相談を行った。

新規相談件数 32件 取扱件数 11件 継続相談件数 85件

新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少し、特例貸付を受けた世帯への相談支援を行った。

貸付決定件総数（令和4年9月30日受付終了）

緊急小口資金 128件

総合支援資金 81件 総合支援資金（延長） 17件 総合支援資金（再貸付） 27件

貸付総額 8,427万円

返済中の世帯 106世帯

(2) 生活困窮者自立促進支援事業

富山県東部生活自立支援センターと連携して、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者に対し支援を行った。

町報や社協だより「そよかぜ」に相談日を掲載し広報に努めた。

(3) 福祉のフリーマーケット事業

富山国際大学及び立山町との共催事業として、学生服や生活用品等の遊休品を取り扱い、生活困窮者等が必要な生活用品を安価で習得できるフリーマーケットの運営を行った。また、売上金の一部を共同募金へ寄付するなど福祉活動を行った。

販売日：令和5年12月17日（日）

物品受付：令和5年12月7日（木）、12月10日（日）

合計販売数455点 合計販売額123,750円

1.4. 出逢い応援事業

サポートセンター「おむすびくらぶ」を設置し、結婚相談や情報交換を通して出逢いの場を提供し、結婚への支援を行った。

・センター運営体制

推進委員15名 支援員20名(プランナー6名・アドバイザー8名・サポーター6名)

センター長1名(社協事務局長兼任) コーディネーター1名(社協職員兼務)

登録会員189名 内訳：男性133名・女性89名（令和6年3月31日現在）

※推進委員会の設置

円滑な運営と効果的な事業推進を図るために設置

立山町内で活躍する企業や団体、支援機関、学識経験者及びその他会長が必要と認めた者で組織し、立山町社会福祉協議会会長が委嘱するもの。

※支援員の配置

支援員は、地域活動に参加している者で、結婚への支援及び地域の担い手育成に理解と関心を持ち、その役割遂行に支障のない者を立山町社会福祉協議会会長が委嘱するもの。

・結婚相談日の開設

アドバイザーによる結婚相談を第4木曜日午後、第1・第3土曜日午前・第1・3木曜日夜、第2第4火曜日夜に開設し、登録会員への結婚相談等に応じる。

元気交流ステーション相談室等	相談件数（窓口）	52件
	（電話）	118件
	（メール）	31件
	マッチング対応	26件

・成婚カップル 0組（累計8組）

・推進委員会の開催 関係機関への広報啓発及びセンターへの指導助言を行った。

第1回推進委員会

7月7日 元気交流ステーション 参加者 9名

第2回推進委員会(報告)

3月1日 元気交流ステーション 参加者 8名

・支援員研修会及び情報交換会の開催 結婚支援に対する必要な研修(婚活支援、情報セキュリティ、コミュニケーション等)を開催し、支援員の資質向上を図り、支援員間の情報共有の場を提供

第1回全体研修会

7月3日 元気交流ステーション 参加者24名

第1回支援員情報交換会・研修会

7月27日 元気交流ステーション他 参加者15名

第2回支援員情報交換会・研修会

9月22日 元気交流ステーション他 参加者12名

第3回支援員情報交換会・研修会

11月14日 元気交流ステーション 参加者13名

第2回全体研修会

12月9日 元気交流ステーション 参加者17名

第4回支援員情報交換会・研修会

3月18日 元気交流ステーション 参加者15名

・登録会員向け事業啓発イベント等の開催

春イベント：春の出会いまったり婚活4×4

4月16日 25歳～39歳男女対象 埜の家 参加者12名

35歳～49歳男女対象 埜の家 参加者13名

夏イベント：夏×恋×出会いー学校婚活

8月2日 20代～40代男女対象 上東地域活性化センター 参加者22名

秋イベント：大人の遠足2023

10月1日 20代～40代男女対象 芦嶺寺方面 18名

冬イベント：冬×出会いークリスマスディナーパーティ

12月2日 25歳～39歳男女対象 森の茶屋糧 参加者16名

※参加者を対象に事前にワンポイント講座を開催 森の茶屋糧 参加者16名